

コミュニティ・スクールだより

名張市教育委員会事務局発行
第36号 令和5(2023)年 2月22日

コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進へ

「文部科学大臣表彰受賞」

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～

児童の課題に基づいた「熟議」



箕曲小学校のコミュニティ・スクールとしての取組が文部科学大臣賞を受賞しました。箕曲小学校学校運営協議会（以下、「協議会」）では箕曲地域づくり委員会と一体となって、地域学校協働活動をはじめとする様々な取組が行われています。この度、協議会と地域学校協働活動の取組について審査が行われ、受賞が決まりました。

まず、協議会の取組についてです。箕曲小学校の協議会において大切にされていることは、「課題解決に向けて、協議会としてできることは何か検討すること」です。具体的には、子どもたちの自己肯定感・有用感を高めていくために、どのような手立てが考えられるのか、委員それぞれが意見を出し合いました。

協議会と一体となって実施された「地域学校協働活動」

次に「地域学校協働活動」についてです。箕曲小学校の課題である自己肯定感・有用感の向上をねらいとした、協議会と地域の一体となった取組が「みのわ冒険の旅」です。これまで個別の行事として実施されていた複数の行事を取り込むことで、より多様な体験・経験を通じて、自己肯定感・有用感の向上につなげられるよう工夫されました。具体的には異学年で構成されたグループで校区内に設置された5つのチェックポイントを巡り、各ポイントで地域コーディネーターが選定した説明担当ボランティアから、歴史や地域の想いを聞かさせていただきました。あわせて道中では見守りボランティアが同行し安全を確保しながら、一緒に清掃活動にも取り組みました。取組を進めるにあたり、地域コーディネーターが学校と地域の橋渡し役となり活動することで、効果的に進めることができています。名張市では現在、地域コーディネーターに代わる立場として「地域学校協働活動推進員」の設置に向けて準備を進めています。



なぜ今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動？

近年、学校と地域を取り巻く課題が複雑化、多様化しています。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学習指導要領の目標を学校と地域が共有し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校と地域が連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えていくことが必要です。

「地域とともにある学校づくり」と「子どもを核とした地域づくり」を併せて実現するために

<背景> 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

教育環境を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識等への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化・困難化

社会の動向

- ・少子高齢化の進行
- ・Society5.0への急速な変化
- ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

教育改革の動き

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・働き方改革の推進
- ・学校DXの推進



求められるものは

- ・これからの時代を生き抜く力の育成(学校だけでは得られない知識・経験・能力)
- ・地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

そのためには

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として

「目標」や「ビジョン」が共有された

コミュニティ・スクール

地域学校協働活動

その結果

地域とともにある学校づくり

子どもを核とした地域づくり

併せて実現

参考：文部科学省「これからの学校と地域」